

---

**耐性菌**

**条件/警告・案内定義**

**メッセージ**

**定義書**

---

**【 Ver. 4.0 】**

## 改版履歴

版数	改版日	改版内容
初版	2013/3/13	初版作成
第二版	2013/8/5	【1.1 運用イメージ】項目追加
		【3.1 基本情報】の項目順番変更
		【3.1.6【発行者】 - 任意項目 -】項目追加
		【3.1.4【重要度】 - 必須項目 -】に削除の説明追加
		【3.2 条件定義】の項目順番変更
		【3.2.4【JANIS コードバージョン】 - 必須項目 -】項目追加
		【3.2.6【薬剤条件】 - 任意項目 -】に検査方法別の説明追加
		【4.2 条件定義】項目変更にあわせ更新
		【5 設定例】項目変更にあわせ更新
第三版	2015/2/12	【3.2.7【検査材料条件】 - 任意項目 -】項目追加
		【3.3.2【包括グループ名】 - 必須項目 -】項目追加
		【4.2 条件定義】項目変更にあわせ更新
		【5 設定例】項目変更にあわせ更新
		【6 お問い合わせ】更新
第四版	2017/3/21	【4.2 条件定義】の「菌条件」「薬剤条件」「検査材料条件」の最大長を4000byteに拡張

## 目次

---

1. はじめに .....	4
1.1. 運用イメージ .....	4
2. 概要 .....	5
2.1. コード表について .....	5
2.2. 各項目間の区切り文字 .....	5
2.3. コメント .....	5
2.4. 予約文字・予約語 .....	5
2.5. メッセージファイルの種類 .....	6
2.6. ファイルの形式 .....	7
3. 耐性菌メッセージファイル 定義 .....	8
3.1. 基本情報 .....	8
3.2. 条件定義 .....	10
3.3. 包括定義 .....	12
4. 耐性菌メッセージファイル 項目一覧 .....	14
4.1. 基本情報 .....	14
4.2. 条件定義 .....	15
4.3. 包括定義 .....	16
5. 設定例 .....	17
6. お問い合わせ .....	18

## 1. はじめに

こちらは耐性菌条件/警告・案内定義メッセージファイルのフォーマット定義書です。

耐性菌の条件とメッセージを定義したファイルをシステム等に適用することで、特定のシステムに限られることなく、共通した条件で警告や案内の対象となる耐性菌を発見することができ、また共通のメッセージを表示させることができます。

### 1.1. 運用イメージ

耐性菌条件/警告・案内定義メッセージファイルの、運用の一例をイメージとして下記に示します。



## 2. 概要

---

### 2.1. コード表について

---

耐性菌の条件の内容には、「菌コード」「抗菌薬コード」が使用されます。各コードは「厚生労働省 院内感染サーベイランス (JANIS) 事業」の検査部門で使用されているコードを使用します。

各コード表は下記の URL を参照してください。

<http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

JANIS サイト トップページ > 各部門について > 検査部門

- ・ 菌名コード
- ・ 抗菌薬コード (検査部門用)

### 2.2. 各項目間の区切り文字

---

耐性菌のメッセージファイルは「菌」や「薬剤条件」など複数の項目に分けられます。これらの各項目を区切る文字としてカンマ『 , 』を使用しています。

### 2.3. コメント

---

ブラケット[]で囲ったものは、コメントとして扱われます。コメントはデータの処理上は無視されますが、定義ファイル内で補足や注釈として使用できます。

例 : 1401 [IPM/CS] (CAT=R | MIC>=16 | ZOD<=13) OR 1411 [MEPM] (CAT=R | MIC>=16 | ZOD<=13)

### 2.4. 予約文字・予約語

---

下記の文字、語句は各設定値として使用できません。

- ・ カンマ『 , 』

項目の区切り文字として使用されています。

- ・ ブラケット『 [ ] , 『 ] 』

コメント用に使用されています。

- ・ 『 <BR> 』

改行を表す記号として使用されています。

(3.1.10【メッセージ】 - 必須項目 - でのみ使用できる予約語です。)

## 2.5. メッセージファイルの種類

耐性菌メッセージファイルは下記の3つの区分の情報に分けられます。

### 【基本情報】

耐性菌の基本的な情報が記述されます。こちらには下記の項目が含まれます。

「菌名略称」「メッセージバージョン」がキー項目です。こちらの項目は1つのファイル内で重複して設定できません。

- ・メッセージ区分
- ・菌名(略称) . . . . . キー項目
- ・メッセージバージョン . . . . . キー項目
- ・重要度
- ・菌名(正式名)
- ・発行者
- ・作成者
- ・作成者所属
- ・作成日
- ・メッセージ

### 【条件定義】

耐性菌の条件が記述されます。こちらには下記の項目が含まれます。

- ・メッセージ区分
- ・菌名(略称)
- ・メッセージバージョン
- ・JANIS コードバージョン
- ・菌条件
- ・薬剤条件
- ・検査材料条件

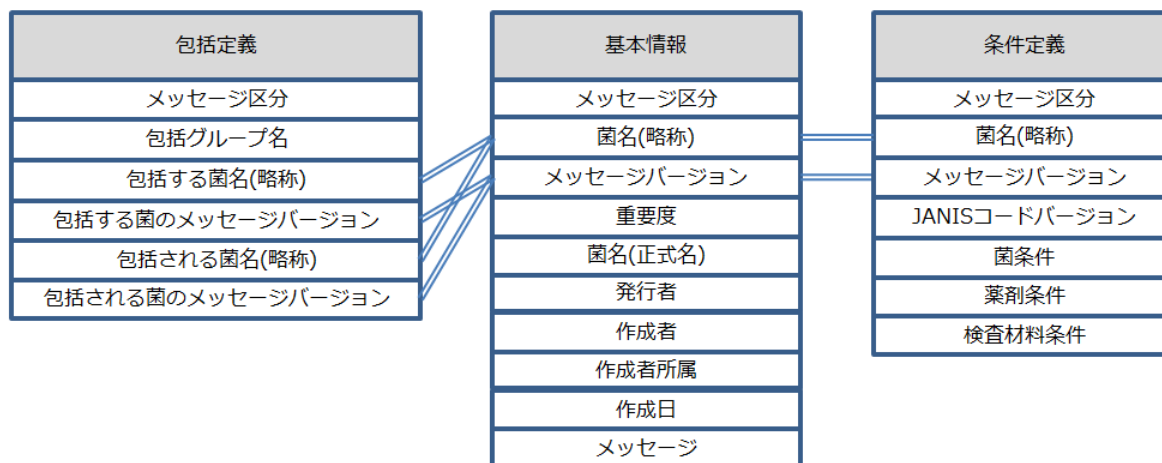
### 【包括定義】

多剤耐性緑膿菌とカルバペネム耐性緑膿菌など、一方の条件に包括される菌がある場合、分離菌1つに対して、包括関係にある複数の警告メッセージを表示させないために記述されます。メッセージファイル内に包括関係の菌がない場合はこちらは記述されません。下記の項目が含まれます。

- ・メッセージ区分
- ・包括グループ名
- ・包括する菌名(略称)
- ・包括する菌のメッセージバージョン
- ・包括される菌名(略称)
- ・包括される菌のメッセージバージョン

### 2.5.1. 各メッセージファイルの関連

各メッセージファイルは下記の図に示す項目で関連付けられます。



## 2.6. ファイルの形式

文字コード「Shift\_JIS」を使用したテキスト形式のファイルです。ファイルの拡張子には、カンマで区切られたファイルを示す[.csv]が使用されます。

また、耐性菌のメッセージファイルでは各データ(レコード)を改行で区切りますが、改行コードにはWindows表示である「CRLF」(文字コード「0D 0A」)が使用されます。

## 3. 耐性菌メッセージファイル 定義

---

耐性菌メッセージの各情報の定義を説明します。

### 3.1. 基本情報

---

名称やメッセージなど耐性菌の基本となる情報が定義されます。

#### 3.1.1. 【メッセージ区分】 - 必須項目 -

---

こちらの情報が[基本情報]であることを示す区分が「1」固定で設定されます。

#### 3.1.2. 【菌名(略称)】 - 必須項目 -

---

警告として表示される際の菌の略称が設定されます。

#### 3.1.3. 【メッセージバージョン】 - 必須項目 -

---

定義された耐性菌のバージョンが設定されます。

#### 3.1.4. 【重要度】 - 必須項目 -

---

対象の菌が分離された際の重要度が低い順から 1~5 で設定されます。

また、菌名(略称)が変更された場合や不要になった場合など対象菌を削除する場合は、こちらに[-1]が設定されます

〈重要度〉

1:表示のみ

2:強調表示

3:注意

4:警告

5:最重要

-1:削除

#### 3.1.5. 【菌名(正式名)】 - 必須項目 -

---

警告として表示される際の菌の正式名称が設定されます。

#### 3.1.6. 【発行者】 - 任意項目 -

---

耐性菌条件の発行者名が設定されます。



---

**3.1.7. 【作成者】 - 任意項目 -**

---

耐性菌条件の作成者名が設定されます。

---

**3.1.8. 【作成者所属】 - 任意項目 -**

---

耐性菌条件の作成者の所属名が設定されます。

---

**3.1.9. 【作成日】 - 任意項目 -**

---

条件を作成した日付が、YYYYMMDD 形式で設定されます。

---

**3.1.10. 【メッセージ】 - 必須項目 -**

---

対象の菌が分離された際に表示する警告メッセージが設定されます。警告メッセージに改行が含まれる場合は、HTML タグの『 <BR> 』が使用されます。

## 3.2. 条件定義

[基本情報]で定義された耐性菌の、条件が設定されます。1つの耐性菌であっても、菌と薬剤の条件の組み合わせによって、[条件定義]は複数行で設定される場合があります。

### 3.2.1. 【メッセージ区分】 - 必須項目 -

こちらの情報が[条件定義]であることを示す区分が「2」固定で設定されます。

### 3.2.2. 【菌名(略称)】 - 必須項目 -

対応する[基本情報]の【菌名(略称)】と同じ値が設定されます。

### 3.2.3. 【メッセージバージョン】 - 必須項目 -

対応する[基本情報]の【メッセージバージョン】と同じ値が設定されます。

### 3.2.4. 【JANIS コードバージョン】 - 必須項目 -

3.2.5【菌条件】 - 必須項目 -、3.2.6【薬剤条件】 - 任意項目 -、で使用される菌名コードマスタ、抗菌薬コードマスタのバージョンが、JANIS 検査部門データフォーマット【バージョン情報】形式で設定されます。例えばこちらに[V501]が設定されている場合、使用されている菌名コードマスタのバージョンは「Ver. 4.0」、抗菌薬コードマスタのバージョンは「Ver. 4.0」となります。

バージョン情報と各マスタのバージョンの対応は、下記のサイトを参照してください。

<http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

JANIS サイト トップページ > 各部門について > 検査部門 ページ

「検査部門提出データの概要と作成の手引き」

設定例：「V501」

### 3.2.5. 【菌条件】 - 必須項目 -

耐性菌となる条件の菌コードが設定されます。複数の菌コードが条件になる場合は各菌コードが「OR」で結ばれます。

設定例：「4400 OR 4401 OR 4402 OR 4403」

### 3.2.6. 【薬剤条件】 - 任意項目 -

耐性菌となる条件の抗菌薬コードと感受性検査の結果が下記の形式で設定されます。

[抗菌薬コード] + 「(」 + [検査結果(\*)] + 「|」 + [検査結果(\*)]… + 「)」

\* 検査結果は検査方法別に1~3つ設定され、各検査結果は「|」で区切ります。検査方法は3種類あり、形式は下記の通りです。また、検査方法が複数設定されている場合は、どれか1つでも条件に当てはまれば、その抗菌薬の条件に該当することとなります。

・SIRを条件とする場合：「CAT」 + 「=」 + [SIR]

[SIR]には、[S][I][R][NS] (not S) [IR] (I or R)が設定されます。

(設定例) CAT=NS

・MIC値を条件とする場合：「MIC」 + [不等号] + [MIC値]

[不等号]には、「=」、「<」（より小さい）、「>」（より大きい）、「<=」（より小さい又は等しい）、「>=」（より大きい又は等しい）が設定されます。

[MIC値]には、数字でMIC値が設定されます。

(設定例) MIC>=16

・阻止円径を条件とする場合：「ZOD」 + 「<=」 + [阻止円径(mm)]

[阻止円径(mm)]には、数字で阻止円径(mm)が設定されます。

(設定例) ZOD<=14

抗菌薬が複数になる場合は、「AND」「OR」で各条件が結ばれ、また括弧「( )」によって優先する条件が設定されます。括弧の中に括弧が設定される場合があります(入れ子構造、ネスト)、ネストは16段階までです。なお、右記の例ではネストは2段階と数えます。『(A OR (B AND C))』

また、「AND」と「OR」では、「AND」が優先されます。例えば「A OR B AND C」という条件は「A OR (B AND C)」と同じ扱いになります。

設定例：「((1401[IPM/CS] (CAT=R||MIC>=16||ZOD<=13) OR 1411[MEPM] (CAT=R||MIC>=16||ZOD<=13)) AND (1816[AMK] (CAT=I||MIC>=16||ZOD<=12) OR 1816(CAT=IR) OR 1816(CAT=R))) OR (2301[VCM] (MIC>=16||ZOD<=22))」

(ブラケット[]で囲ったものは、コメントです。)

### 3.2.7. 【検査材料条件】 - 任意項目 -

耐性菌となる条件の検査材料コードが設定されます。複数の検査材料コードが条件になる場合は各検査材料コードが「OR」で結ばれます。

設定例：「401 OR 402」

### 3.3. 包括定義

---

複数の抗菌薬に対する耐性菌の警告と、単一の抗菌薬に対する耐性菌の警告がそれぞれ設定され、それらが包括する関係にある場合、こちらの情報を設定します。例えば「多剤耐性緑膿菌」と「カルバペネム耐性緑膿菌」を定義する場合、「多剤耐性緑膿菌」を包括する菌、「カルバペネム耐性緑膿菌」を包括される菌として設定します。

包括する関係がない場合はこちらの情報は設定されません。

各項目は、対応する[基本情報]で定義された耐性菌の項目と同じ値が設定されます。

また、こちらは包括する菌と包括される菌が常に1対1で設定されます。3剤耐性菌～1剤耐性菌など2段階以上で包括する場合は下記のように設定されます。

- ・ 3剤耐性菌(包括する菌) - 2剤耐性菌(包括される菌)
- ・ 3剤耐性菌(包括する菌) - 1剤耐性菌(包括される菌)
- ・ 2剤耐性菌(包括する菌) - 1剤耐性菌(包括される菌)

#### 3.3.1. 【メッセージ区分】 - 必須項目 -

---

こちらの情報が[包括定義]であることを示す区分が「3」固定で設定されます。

#### 3.3.2. 【包括グループ名】 - 必須項目 -

---

包括グループ名が設定されます。

下記の例のように、同じグループ名で複数の包括定義が設定されることもあります。

例)

グループ名・・・緑膿菌

包括定義①・・・多剤耐性緑膿菌 - カルバペネム+フロオロキノロン耐性緑膿菌

包括定義②・・・多剤耐性緑膿菌 - カルバペネム耐性緑膿菌

包括定義③・・・カルバペネム+フロオロキノロン耐性緑膿菌 - カルバペネム耐性緑膿菌

#### 3.3.3. 【包括する菌名(略称)】 - 必須項目 -

---

包括する菌が、対応する[基本情報]の【菌名(略称)】と同じ値で設定されます。

#### 3.3.4. 【包括する菌のメッセージバージョン】 - 必須項目 -

---

包括する菌が、対応する[基本情報]の【メッセージバージョン】と同じ値で設定されます。

#### 3.3.5. 【包括される菌名(略称)】 - 必須項目 -

---

包括される菌が、対応する[基本情報]の【菌名(略称)】と同じ値で設定されます。

### 3.3.6. 【包括する菌のメッセージバージョン】 - 必須項目 -

---

包括される菌が、対応する[基本情報]の【メッセージバージョン】と同じ値で設定されます。

## 4. 耐性菌メッセージファイル 項目一覧

耐性菌メッセージの各情報の項目の一覧です。

### 4.1. 基本情報

No.	項目名	属性	最大長 (byte)	内容	設定例
1	メッセージ区分	数字	1	[1]固定	1
2	菌名(略称)	文字	50	菌の略称	MDRA
3	メッセージバージョン	数字	3	メッセージのバージョン	100
4	重要度	数字	2	重要度 1(低)~5(高)、 -1(削除)	5
5	菌名(正式名)	文字	200	菌の正式名称	多剤耐性アシネトバクター属
6	発行者	文字	100	発行者名	耐性菌管理センター
7	作成者	文字	20	作成者名	警告太郎
8	作成者所属	文字	100	作成者の所属名	KEYWARE
9	作成日	文字	8	作成した日(YYYYMMDD)	20120223
10	メッセージ	文字	1000	対象の菌を分離した際に 表示するメッセージ、警告	菌株を保存し、国立感染症研究 所へ連絡してください。 国内 での報告がまれな薬剤耐性菌で す。

## 4.2. 条件定義

No.	項目名	属性	最大長 (byte)	内容	設定例
1	メッセージ区分	数字	1	[2]固定	2
2	菌名(略称)	文字	50	菌の略称	MDRA
3	メッセージバージョン	数字	3	メッセージのバージョン	100
4	JANIS コードバージョン	文字	4	使用マスタのバージョン	V501
5	菌条件	文字	4000	菌の条件	4400 OR 4401 OR 4402 OR 4403
6	薬剤条件	文字	4000	薬剤の条件 「抗菌薬コード(検査結果)」	(1401[IPM/CS](CAT=R  MIC>=16   ZOD<=13) OR 1411[MEPM](CAT=R  MIC>=16  Z OD<=13)) AND (1816[AMK](CAT=I  MIC>=16  ZO D<=12) OR 1816(CAT=IR) OR 1816(CAT=R)) AND (2521[CPFX](CAT=R  MIC>=4) OR 2516[LVFX](CAT=R  MIC>=8) OR 2561[GFLX](CAT=R  MIC>=8))
7	検査材料条件	文字	4000	検査材料の条件	401 OR 402

### 4.3. 包括定義

No.	項目名	属性	最大長 (byte)	内容	設定例
1	メッセージ区分	数字	1	[3]固定	3
2	包括グループ名	文字	255	包括グループの名称	緑膿菌
2	包括する菌名(略称)	文字	50	包括する菌の略称	MDRP
3	包括する菌のメッセージバージョン	数字	3	包括する菌のメッセージバージョン	100
4	包括される菌名(略称)	文字	50	包括される菌の略称	CRP
5	包括される菌のメッセージバージョン	数字	3	包括される菌のメッセージバージョン	100



## 5. 設定例

耐性菌メッセージファイルの設定例です。

下記の例では、MRSA、MDRA、CRP (カルバペネム耐性緑膿菌)、MDRP を定義しています。また、カルバペネム耐性緑膿菌を、MDRP に包括される菌として設定しています。

(こちらは例ですので、実際の条件とは異なります)

```
*****
1, MRSA, 100, 1, メチシリン耐性黄色ブドウ球菌, 耐性菌管理センター, 警告太郎, KEYWARE, 20120223, 件数をカウントし、ICT に報告してください。
1, MDRA, 100, 5, 多剤耐性アシネトバクター属, 耐性菌管理センター, 警告太郎, KEYWARE, 20120223, まれな耐性菌です。<BR>再検してください。
1, CRP, 100, 2, カルバペネム耐性緑膿菌, 耐性菌管理センター, 警告太郎, KEYWARE, 20120223, 件数をカウントし、ICT に報告してください。
1, MDRP, 100, 4, 多剤耐性緑膿菌, 耐性菌管理センター, 警告太郎, KEYWARE, 20120223, 件数をカウントし、ICT に報告してください。
2, MRSA, 100, V501, 1301, 1208=R,
2, MRSA, 100, V501, 1303,
2, MDRA, 100, V501, 4400 OR 4401 OR 4402 OR 4403, (1401 (CAT=R)) AND (1816 (CAT=I) OR 1816 (CAT=IR) OR 1816 (CAT=R)) AND (2516 (CAT=R) OR 2521 (CAT=R) OR 2561 (CAT=R)),
2, CRP, 100, V501, 4001, 1401 (CAT=R) OR 1411 (CAT=R),
2, MDRP, 100, V501, 4001, (1401 (CAT=R)) AND (1816 (CAT=I) OR 1816 (CAT=IR) OR 1816 (CAT=R)) AND (2516 (CAT=R) OR 2521 (CAT=R) OR 2526 (CAT=R) OR 2561 (CAT=R)) ,
3, 緑膿菌, MDRP, 100, CRP, 100
*****
```

## 6. お問い合わせ

---

こちらの資料に関する質問は下記までお問い合わせください。

東海大学医学部基礎医学系 生体防御学 藤本 修平

キーウェアソリューションズ株式会社 官公システム事業部 中川 岳人